

## 「コミュニティ・スクールからスクールコミュニティへ」

校長 増野 淳 一

先週、市教委主催のコミュニティ・スクール研修会があり、本校の実践を発表しました。本校の取組の特徴は次の4点にまとめられます。

- ①推進組織（地域連携・学習支援・健康安全・環境美化の4支援部会）が中学校区で統一されており、上宇部中・琴芝小・上宇部小で連携した取組が進められている。
- ②各部会それぞれで、地域住民、保護者、教職員と一緒に協議し取組を進めている。
- ③学校運営協議会長さん、上宇部ふれあいセンター館長さん、小学校長が三位一体となって、常に協議しながら、理念を共有して取り組んでいる。
- ④「小学校としてできる地域貢献」を重視し、地域活性化の活動（まなびーや、まちのえき等）と連動した取組を進めている。

これら上宇部だからこそその取組を発表し、市内各地域の参加者からは大いなる賛同をいただきました。

研修会では、コミュニティ・スクールのモデルとなった習志野市立秋津小学校の元 PTA 会長の岸裕司氏の講演もありました。岸氏は、地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）からさらに、学校とともにある地域づくり（スクール・コミュニティ）を進めている大変著名な方です。



コムスク会長さんから、4年生の二分の一成人式で祝辞を頂きました。

秋津小学校には年間3万3千人の大人が訪れ、児童とともに活動をしている学校です。本年度、本校が開始した「授業参加」ではなく、「授業参画・協働」というさらに高いレベルでの実践が行われています。児童と地域の大人が日々交流している学校。この学校の児童は地域の人に大切にされているという自尊感情にあふれ、いじめは0、不登校も0だそうです。上宇部だからこそその実践に、研修会で学んだ秋津小の発想を生かしていきたいと思います。

学校とともにある地域づくり（スクール・コミュニティ）は、平成27年3月の教育再生実行会議提言で「すべての学校において住民や保護者等が学校運営に参画するコミュニティ・スクール化を図り、地域との連携・協働体制を構築し、学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）への発展を目指すことが重要」と初めて公的に登場しました。学校教育と社会教育が融合した取組。まさに地域創成の取組そのものです。

岸氏の資料に、「**子縁**（こえん）を活かして学校と地域をつなぐ」、「子縁とは、子をもつ親はもちろん、子をもたない夫婦や子や孫などいないまたは同居していないお年寄りなどにも拡大させて、地域社会で様々な人と人をつなぐ新しい縁結びの考え方」とありました。

本校授業参加の様子を見ていると、まさにこの「子縁」が拓がり始めたと感じています。ふれあいセンターの地域活性化の様々な取組は、秋津にも負けないと思います。上宇部だからこそそのコミュニティ・スクール、スクールコミュニティの取組により、上宇部の子どもの生きる力を育み、子縁によって上宇部の人と人をつなぎ、誰もがあこがれる上宇部地域をつくっていきましょう。保護者、地域の皆様のご理解、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。